

*** 第1回天文台古墳発掘調査(昭和46年3月)の写真発見**

国立天文台構内には全国でも珍しい古墳がある。その形状が下方上円墳と呼ばれるもので、日本に4基(5基という説もある)しかないといわれている古墳である。5基説では、1. 野地久保古墳(福島県白河市)、2. 天文台構内古墳(東京都三鷹市)、3. 武蔵府中熊野神社古墳(東京都府中市)、4. 清水柳北一号墳(静岡県沼津市)、5. 石のカタト古墳(カザハヒ古墳、風灰古墳)(奈良県奈良市と京都府相楽郡木津川市境)の5基である。古墳時代の終末期、7世紀の中ごろから末期に築造されたようである。天文台の古墳は発掘調査で「壺」と「はじき」(写真8)と呼ばれる土器が出土し、これらから築造年がかなりはっきりしており670年代だと言われている。下方上円墳は正方形の墳丘の上に円形の墳丘が乗った形の古墳で、埋葬者は極めて身分の高い人物だったと推定されている。

昭和46年に三鷹市教育委員会の手で第1回の発掘調査が行われている。しかし、なぜか三鷹市教育委員会に当時の写真が残っていないようで、三鷹市遺跡調査会で当時の写真を探していたので心当たりで触手を出していたところ、国立天文台デジタルアーカイブの写真の中に関係する6枚の写真を発見した。今回発見した天文台古墳第1回発掘調査の時の天文台古墳が写真1である。



写真1 天文台構内古墳

写真 1 の天文台構内古墳は現在とはずいぶん様子が違って、この円墳にはまだ梅の木が植えられていない。この円墳一帯に梅の木を植えたのは当時の用務員さんだったが、その頃には現在のキャンパス委員会のようなものが無く、用務員さんの判断で植樹が出来ていたようだ。この古墳が貴重な歴史遺産という意識もなかった用務員さんには木の根っこが古墳を破壊する等という事は思いも及ばなかったことであろう。今回発見した写真は、他に写真 2、写真 3、写真 4、写真 5、写真 6 の 5 枚がある。



写真 2 昭和 46 年の発掘の様子

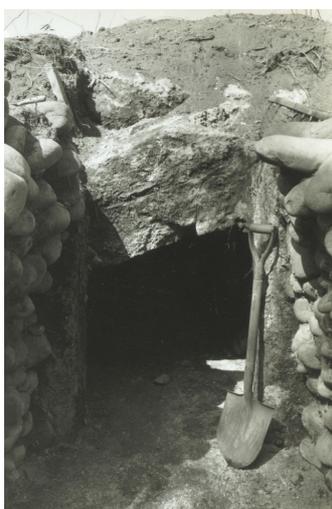


写真 3

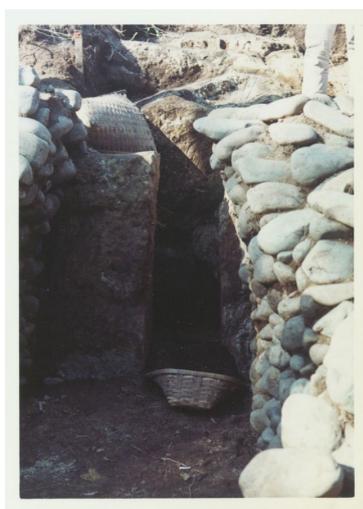


写真 4

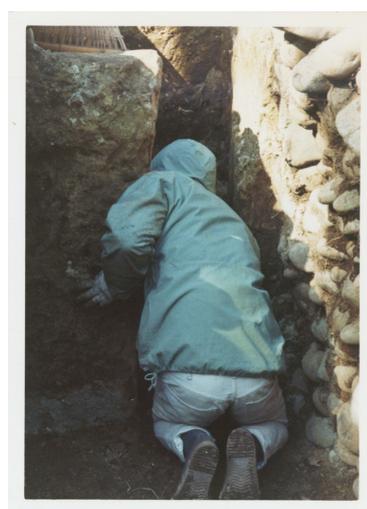


写真 5

三鷹市の遺跡調査室の高麗さんから昭和46年の発掘調査の写真が無いかと尋ねられていたので、この写真を発見してすぐに遺跡調査室に連絡すると、高麗さんはすぐに行くと、すっ飛んで筆者のところにお出でになった。



写真6

高麗さんは、この写真を撮影された方がもっといろいろな写真を持っておいでではないか、心当たりは当ってほしいと言われた。そこで天文台にお勤めで昭和46年の頃から写真をよく撮っていた人を知っているから尋ねることにした。

同じ下方上円墳の武蔵府中熊野神社古墳は7世紀中頃に造られ、2003年に上円下方墳と確認されている。この熊野神社古墳は最近復元工事が行われ写真7のようになっている。



写真7 復元された熊野神社古墳



写真8 天文台構内古墳から出土した「壺」と「はじき」